



小夜之中山蛇身鳥物語「仙人の図」(欄間) (永林寺)

当時の弁成和尚が雲蝶に語り聞かせた物語を欄間2枚と板絵1枚からなる3部作に仕上げた作品の一つ。雲蝶はこの仙人を彫るにあたって、仙人像のポーズを永林寺境内で毎日子守をしている一人の老女の姿にダブらせて見ていたため、老女は雲蝶が自分に気があるのではないかと勘違いしたという言い伝えが残っている。



鬼退治の仁王像 (西福寺開山堂)

うんぎょう

鬼を退治する吽形の仁王尊。高さ2m余りのケヤキの一木彫りで、木目が全身を通り、美しく波打っている。開山堂の障子からさす僅かな光の中で勇壮に立っている。現在は木製の目に修復されているが、往時はギヤマンがはめ込まれ、もっと迫力があつたという。

## 雲蝶作品のパネル展示紹介

☆県立図書館

『石川雲蝶と魚沼から行く尾瀬パネル展』

※8月6日から8月18日まで開催しました。

☆県庁《18階展望ギャラリー》

『石川雲蝶と魚沼から行く尾瀬パネル展』

※10月11日(火)から10月21日(月)まで開催しました。

☆県庁《2階ギャラリー》

『石川雲蝶パネル展』

10月23日(水)から11月14日(木)まで

## 石川雲蝶の軌跡 (越後入りのきつかけ)

石川雲蝶は文化11年(1814年)に江戸雑司ヶ谷で生まれたと言われています。実はそれ以外の事は詳しく分かっていません。文政11年(1828年)、越後を三条地震という大きな地震が襲いました。三条の金物商内山又造は経済的に打撃を受けている越後で商売をする事をあきらめ、販路を関東に求めました。雲蝶と又造が出会ったのは越谷もしくは川越の宿でした。又造は雲蝶の道具箱を見てたまたまのものではないと感じ、雲蝶も又造の商う三条金物に魅かれたのでしよう。夜、酒を酌み交わしながら又造は雲蝶に、「地震で被害を受けた社寺がたくさんあるのでぜひ越後に来るように」と勧めました。雲蝶はその言葉を忘れず、数年後に越後入りすることになりました。

(文・イラスト

高橋郁丸)



雲蝶と又造の出会い

よもやま話

## 雲蝶 時空を超えて会いに行く

彫刻は空間芸術。雲蝶作品を目の前にすると、江戸時代にタイムスリップしたようです。

様々な雲蝶を探しに、魚沼から、長岡と三条へ出かけてみました。

長岡では、観光ガイドが、三条では雲蝶会の皆様が説明してくれるので、充実した時を過ごせます。

古い中にも、新鮮さを感じさせる雲蝶作品に会いに行ってみませんか？